

3-12

演題	虐待防止について
副題	～利用者の尊厳を守るため～

意識改革
安全確保

法人名	社会福祉法人 照陽会
施設名	みんなと暮らす町

発表者名 (職種)	田口 涼 相談員
共同発表者	田村 千秋
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	川崎市幸区東古市場 116-12
TEL	044-520-1901
FAX	044-520-1906
メールアドレス	minamachi-jim@dmail.plala.or.jp
URL	https://www.taiyonosono.or.jp/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	特養ユニット型個室 120 床、ショートステイ 20 床、デイサービス定員 25 名、地域包括支援 支援センターを運営。「自由・勝手・気ままな暮らし」「遊びの追求」を法人の理念として掲げ、 平成 20 年より運営している。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

コロナ禍において家族の面会や行事など外部と施設の接点が減少し、その結果、職員主体のケアになりかねない現状が確認された。その改善に有効な研修参加も少ないためオンライン研修を導入活用し多くの職員で課題を共有し個々の意識改革を図り利用者の尊厳を守るケアを目指した。

取り組んだ課題

『高齢者施設における不祥事防止に係る一斉点検』を実施したところ、職員の虐待防止に関する知識や技術の習得及び日常ケアの見直しが必要な結果となり、改善に向けた取り組みを行った。

具体的な取り組み

各専門の他職種による検討チームで議論を重ね Eラーニングを活用した虐待防止に関する研修を実施。次いでアンケート調査を行い意識の変化を調査。その結果を踏まえて課題を明らかにし、改善策を講じた。具体的に利用者役と職員役に扮し介護現場で起こる適切・不適切な対応をロールプレイ実施。最終アンケートを行い、さらなる意識の変化を調査。

活動の成果と評価

1. Eラーニングの活用は研修の場所と時間を柔軟にし、多くの職員が研修に参加できた。
2. 複数回アンケート調査を重ねる事で、職員の虐待防止に関する意識を明確化できた。
3. 適切・不適切な対応のロールプレイ体験を行う事で、虐待を受ける側の当事者意識の理解を促し、声掛けや接し方の見直しを図る事ができた。

今後の課題

1. 今後も定期的な研修や日頃の接遇の見直しを図り、虐待防止への取り組みを継続していく。
2. 虐待についての相談をしやすい、風通しの良い環境を作る取り組みを行っていく必要がある。

参考資料など

(株) ツクイスタッフ 動画研修サービス (イーケアラボ) 虐待の基礎知識
民事法研究会 実践 介護現場における虐待の予防と対策